

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実特別版”

『月刊現代 - 私はなぜ「タブー」に挑んだのか - 』

第5回

『週刊現代』に続き『月刊現代』もJR東日本の革マル浸透問題を告発した。本紙は筆者の了解を得て、驚くべきこの事実をシリーズで紹介することとした。

政府筋からブレーキがかかり、松田氏は手のひらを返したように、脱退工作から身を引いた。

そして87年4月、JR各社が発足。前出の「国鉄改革三人組」のうち松田氏はJR東日本へ、葛西氏と井出氏もそれぞれJR東海、JR西日本の役員に就任した。ところがJR発足から3ヵ月後の87年7月、鉄労組合長だった志摩好達氏が、突如として鉄道労連からの脱退を表明した。

「実は志摩氏の背後で、この『鉄道労連脱退』を画策していたのが、松田氏でした。『改革三人組』も、松崎が革マルの最高幹部であることは百も承知でしたが、国鉄改革を推進する戦略上、取り込まざるを得なかった。しかし改革が成功を収めれば、これほど危険な存在はない。そこで三人の中で真っ先に、革マル派切りに動いたのが、JR東日本常務として労務を担当していた松田氏だったのです。

ところが、この志摩氏が鉄道労連からの脱退を表明した直後、JR東日本に対し、当時の政府筋から『スタートしたばかりのJRで労働組合が分裂すれば、行革の成果に傷がつく』とブレーキがかかった。すると松田氏は手のひらを返したように、この脱退工作から身を引き、志摩氏の計画は挫折したのです」（JR東日本関係者）

この「脱退騒動」の責任を取って、志摩氏以下鉄労系役員9人は、鉄道労連を辞任した。その後、鉄労、動労など4労組は当初の予定通り、相次いで解散し、8月末には組織の完全統一を宣言した。しかしこの“幻の分裂劇”を機に、旧鉄労系役員の発言力が急速に弱まる一方で、松崎率いる旧動労系役員の発言力がより一層強まり、現在の「革マル派によるJR総連、JR東労組支配」の構図が確立したのだ。

そして志摩氏と結託し、革マル派排除に動いていたことが、松崎の知るところとなった松田氏は、松崎に屈服した。松崎による経営権の介入を許し、JR東労組とJR東日本当局の癒着が始まる。そして、それは20年の歳月を経て、「JR東労組にあらざれば、人にあらず」という、乗客の安全や生命すら脅かしかねない特異な“企業風土”を形成していくのだ。